農業と観光の連携

平成２６年6月１9日

遠野山・里・暮らしネットワーク

1　はじめに

岩手県遠野市

◎紹介

・民話のふるさと　心象の世界（カッパやざしきわらしが今もいる）

・佐渡島と同じ広さ

・遅れたところ

・Iターンが多い　　２１世紀は遠野の時代

・トオノピアプラン（遠野市総合計画）　肉付けはあとから　田園都市構想

・先進的なまちづくり　市民センター構想　合築　生涯学習のはしり
　市長教育長からの辞令　水光園の水槽　水力発電

・特区（どぶろく）

・助産院ネットワーク

・道の駅

・グリーン・ツーリズム

◎なぜ今グリーンツーリズムか◎

教育水準の向上　歴史遺産への関心　豊かさとレジャー

情報網と交通網の発達　健康への関心　グルメ志向

緑への関心（環境）　本物志向　安らぎ　人口の高齢化

個人主義　農村の衰退

２　遠野の観光スタイル

- ひまわり族
- カッパぶち
- むかしばなし
- 物見遊山でない
- ＪＲ東日本のフォルクローロ遠野オープン
  （新しい旅発見）
- 中心市街地活性化と新たな観光資源

３　遠野のグリーン・ツーリズムの動き

- 遠野グリーン・ツーリズム研究会発足　ＮＰＯ法人設立　クラスター方式
- ドライビングスクールとのコラボ
- つきもうしファーマーズ・ネット　　炭焼き体験　しし踊り体験
- 農家民泊と修学旅行　　・着地型旅行業

遠野ふるさと村（南部曲がり家集落）

まぶりっとの活躍　おもしえー学校

グリーン・ツーリズムの入口機能

ワーキングホリディ（農産物の直売）

ワーキングホリディ（蔵に宿泊）

ワーキングホリディ（馬米、ホースレンソー）

農家民泊の動き（参加農家　１４０戸）

農家民泊（無理をしない）

週に1回の受け入れ

農家民泊（楽しんでやる）

口コミで増える

農家民泊（体験→体感）

農村のまるごと、農家の暮らしに感動

子ども農山漁村交流

ふるさと子ども夢学校

馬を活用したグリーン・ツーリズム

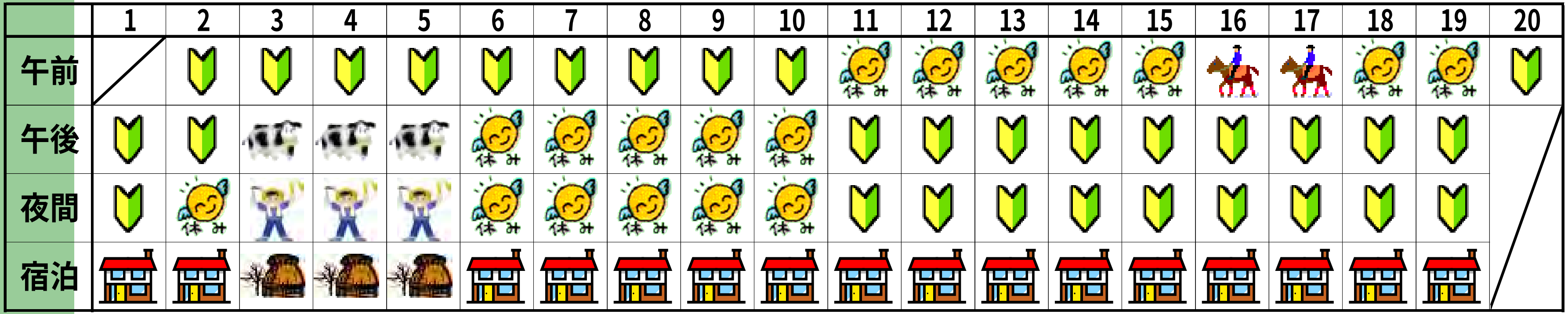
ドライビングスクールとのコラボレーション

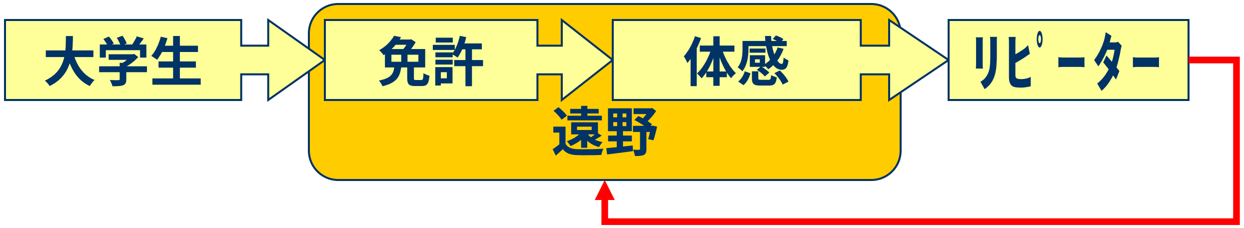
ドライビングスクールのスケジュール

合宿自動車免許　遠野ツーリズム体感

コラボレーション

(イメージ図)





旅の産地直売

農産物の販売

八百屋さん

⇒　スーパーマーケット

⇒　産地直売所

旅の商品

スーパーマーケット的販売

（産直がない）

4　インバウンドの取り組み事例

町の小さな豆腐屋さんで

今年の5月初め被災地復興支援で遠野を訪れたノルウェーとスウェーデンから訪れた世界的カリスマニットデザイナーのお二人

今まで日本訪問4回目。東京や京都は訪れたがこのような田舎で頑張っている豆腐屋さんにビューティフルの連発。

素朴なホスピタリティ

豆腐屋のおばさんの

お話に大感激

記念写真を撮る

ふらっと突然農家を訪問

突然訪れた農家にもかかわらず
農家の暮らしを喜々として説明
する　農家のお母さん

美しく積んでいるマキに感激

馬を飼っている農家に感激

自分の父も馬を飼っていることで親近感　夫婦で記念写真

５企業の研修先としての　農家の評価

企業の新入職員の
コミュニティ能力の
向上研修で
たまたま宿泊した
農家で思いのほか
効果が上がることが
わかり
その後、数社の研修
先として
農家に宿泊する研修
を実施
好評を得ている。

企業　職員の農家研修

6　その他の動き

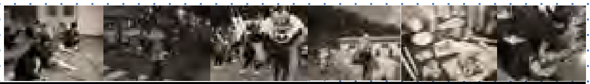
- 自分の住んでいる町がどれほど好きか
- グリーン・ツーリズムは人の生き方をも変える魔物が棲んでいる。
- 観光との違い　利用者と受け入れ者のイコールパートナーとして

  上下の関係から　水平の関係へ

遠野の資源を活かしきる

- 東北グリーン・ツーリズムフィールドスタッフミーティング
- 郷土芸能の数が多い
- 都市との交流
- 東北まちづくり企画者会議
- 武蔵野市との交流
- 常民大学の取り組み
- 小学５年生グリーン・ツーリズム研究会
- Ｉターン者の動き
- 子どもプロジェクトの推進
- 新たな取り組み「立ち寄り農家」

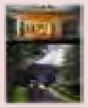
マヨヒガの郷(立ち寄り農家)プロジェクト



都市農村交流の課題とニーズ

<課題>
東日本大震災以降、岩手県の都市農村交流の状況は、平泉のユネスコ文化遺産登録による観光客の増加はあるものの、とりわけ被災地へ訪れる観光客の減少に歯止めがかかっていない。一方グリーン・ツーリズムがまだ一般化していない状況は否めない。いま、都市農村交流人口の増加が喫緊の課題となっている。

<ニーズ>
TV番組で田舎での体験番組がロングラーンで放映、放送されているなど都市の人々のニーズがふるさと志向へと変化しつつある。田舎でのゆったりした時間を過ごしたり、田舎でしか体験できないような体験などに人々は魅了されてきている。

→

→

→

これまでの取り組みとこれから

<これまでの取り組み>
これまで、農家民宿、農家レストラン・カフェ、コミュニティカフェ、産直機能の充実等のグリーンツーリズムの拠点づくり、教育旅行、ワーキングホリディなどの受けいれを行ってきた。

<これから>
県南地域、沿岸被災地とも連携し、既存のコンテンツを取り入れながら、新しい交流の手法「マヨヒガ（立ち寄り農家）プロジェクトの取り組みを行う。

事業目標

『土地の人』が
『地元の魅力』を
再認識し、誇れる『まち』
であると認識すること

継続する事業へ

～ プロジェクト概要 ～

あれもしたい！
これもしたい！

訪問者

選択

購入

土淵のマヨヒガ

宮守のマヨヒガ

松崎のマヨヒガ

■チケット
大人　1枚　1000円
（200円分×5枚）
小人　1枚　500円
（100円分×5枚）
※乳児は無料

■チケットの使い方
訪問者が自分たちが行きたいスポットを選択し、行った先々で1スポットに対して1枚チケットを支払う。

■交通手段
エリアによって訪問者自身が「徒歩」「自転車」「車」「タクシー」を選択できる。

■立ち寄り農家エリア
遠野の点在している観光スポットの周辺に立ち寄り農家を配置する。土淵エリア、松崎エリアといったようにエリアを区切って、まずは2、3か所程度のエリアから開始をする。

<コンセプト>

『市民』がツーリズムの『 主役 』！

<さまざまなコンテンツ>

「人」＝ 交流の資源

「食」の分野
・団子づくりの名人
・そば打ちの名人
・煮しめづくり名人
・山菜名人
・漬物名人

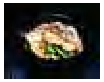
「手業」の分野
・わら細工の名人
・木場ばくりの名人

「農業」の分野
・米農家
・野菜農家
・花農家
・果樹園農家
・酪農＆畜産農家

「郷土史」の分野
・その土地を語れる人
・観光スポットの話ができる人
・郷土芸能の達人

「自然」「動物」の分野
・乗馬の名人
・遠野の自然を語れる人
・鉄砲撃ち

<食べる ・ 泊まる>
・「農家レストラン」
遠野の旬の料理や郷土料理のおもてなし
・「農家民宿」
農的暮らしを体験、体感ができる。

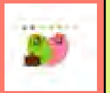


<スローガン>

・無理をしない
・自ら楽しむ
・体験より体感

<今後の活動>

<今後のスケジュール>
・立ち寄り農家の発掘、勧誘
・モデルエリアの決定
・事業体制の構築
　⇒チケットの作成
　⇒ウェルカムボードの作成
　⇒案内マップの作成
　⇒二次交通等の決定



<山里の役割>
・立ち寄り農家の募集（目標：１００軒）
・魅力あるコンテンツ作成を農家さん達と話し合いを重ねながら、作成していく。
・おもてなしの学習会等の開催
・「農家レストラン」「農家民宿」の拡大
・観光客へのチケット販売
・まぶりっとの養成
・市、観光協会等との連携をし、他事業とのコラボレーションを行う。
・集客全般

事業のポイント

その１
農家さんが無理がないように、自分のペースとスタイルで交流を楽しむこと

その２
さらなるコンテンツ開拓やコンテンツの中身に奥行きと深みを追及していくこと

その３
いろいろな事業や人々との連携を図ること

7　終わりに

東北ツーリズム大学